

日本「祈りと救いところ」学会第7回学術研究大会によせて

大会長 大下大圓

(飛騨千光寺住職・国際平和瞑想センター長)

本年度の「日本「祈りと救いところ」学会第7回学術研究大会は、メインテーマを「祈りのちから～スピリチュアリティの次元～」としました。

「祈り」は宗教のあるなしに関わらず、人間の原初的態度であって、そこには可視化できないがゆえの普遍的な希望が潜んでいます。近代医療の発展には科学的で標準化できるエビデンス（科学的根拠）が重視されてきました。しかし1998年、WHO（世界保健機関）が健康の概念に「スピリチュアルな健康」を含める議案を提出して以降、世界的に医療や保健、福祉の領域でも可視化できなくとも、人々の希望や祈りへの配慮が、人々の安寧に寄与するという期待が広まりを見せています。日本では「日本スピリチュアルケア学会」も2016年に発足して日本的なスピリチュアルケアの学際的研究も始まっています。

この大会では「祈りと救い」という学会名を反映して、その中核を担うスピリチュアリティについて語り合う場としたいと思います。とくにテーマとして「スピリチュアリティの次元」を取り上げます。次元とは、「自分以外の他者との関連で深める」＝「平行軸」と、「分や他者を越えた存在で深める」＝「垂直軸」という二つの視点があります。家族、職業、人生、生きがいを中心とする平行軸のスピリチュアリティと、個人の内面世界を深め、あるいは高めていく垂直軸のスピリチュアリティの世界を、多面的に学びあいたいと思います。

大会長講演としては「祈りのちから～平行軸から垂直軸へ」です。招聘講師には、教育講演には、永くアメリカで統合医療を研究された高橋徳先生に「慈悲」の祈りをテーマに祈りという行為とオキシトシン（脳内物質等）との関連をお話いただきます。基調講演には、日本のホスピスケアの先駆者で大阪大学名誉教授の柏木哲夫先生に。公開講座の特別講演には、ブータン国の名誉領事で医学博士の永田良一先生に「幸せの祈り方」についてご教示いただきます。またシンポジウムでは、上智大学教授で日本スピリチュアルケア学会副理事長の島蘭進先生をコーディネータを、シンポジストには、スピリット・センタード・セラピーを提唱されている日本トランスパーソナル心理学/精神医学学会会長で相模女子大学教授石川勇一先生や当学会理事で日本藝術院の山本眞輔先生、おなじく東京医療保健大学教授の齋藤益子先生に登壇いただき、各方面から「スピリチュアリティの次元」について熱く語り合っていただく予定です。

どうか、学会員のみならず、関心のある方のご参加を心よりお待ちしております。